

開会あいさつ

第4回循環制御研究会を主催して

会長 田中 亮*

第4回循環制御研究会は第21回日本医学会総会の会期中であり、第30回日本麻酔学会総会が神戸市で開催される背景を考慮して、日麻会長岩井誠三教授と連係して開催日時、会場を決定した。多くの会員諸賢のご意見を参考に、本研究会は2主題を採択した。第1主題は「循環制御のシミュレーション」である。生体機構の特性を模したモデルを機械化したり、電気回路で表現する方法は生体機構を理解する上で役立つだけでなく、研究分野でも、臨床領域でも必要な手法である。生体機構のモデル化は、かつては簡単なコンポーネントに限定されたが、コンピュータの普及発達とともに、近年この分野の研究は飛躍的に進歩したはずである。循環制御に関心をもつ本研究会会員には誠に適切な主題であろう。

幸い、この分野で多くの業績のある佐藤登志郎教授（北里大学 内科学）は本主題をきわめて簡明に解説された。コンピュータ・シミュレーションは心臓、冠循環、末梢循環を再現し、病態にも応用は展開した。麻酔科医の関心を集めたのは循

環自動制御による低血圧麻酔（田中義文氏）と、麻酔の自動化（岡崎亀義氏）であった。両テーマともに生体機構からの情報を定量的に入手し、機械的に反応せしめる回路であり、麻酔の循環制御を研究するためによい参考となった。

第2主題「心血管手術の麻酔」はシンポジウムとして選んだ。限られた時間内に、きわめて要領よく、内容のある討論がもたれた。シンポジウムに招かれた6名の先生は、経験豊富であり、ご自身のデータと主張をお持ちの方々ばかりであり、大変ききごたえあった。司会の古谷幸雄教授（東京女子医大 麻酔科）の周到かつ綿密なまとめに会員の期待に応えるものであった。

本研究会は発足以来4年目で430名の出席者に支えられるものとなったことは喜ばしい。日本麻酔学会総会の precongress meeting として定着化してきたが学会的な窮屈な形式をとらず、研究会としての使命を維持したいと願うものである。また、本研究会本来の主義主張は貫くべきであろう。

*北里大学医学部麻酔科教授